富山第一銀行奨学財団研究助成セミナー

研究成果発表会

日 時　平成19年6月7日(木)　午後3:00

会 場　富山国際会議場2Ｆ多目的会議室

入場料無料

開催にあたり　財団法人 富山第一銀行奨学財団 理事長　金岡 純二

当財団では昭和34年の財団設立以来行っている学生への奨学金の給貸与の他に、昭和59年から学術研究活動の支援を目的として、各教育機関へ研究助成活動を行っております。

この活動は、平成18年度までの23年間で、件数531件、金額2億2千万円を数えるに至っております。

この度、平成18年度に研究助成を受けられた先生方の「研究成果発表会」を開催することになりました。当発表会は、研究内容とその成果を一般・企業等の皆様にご紹介する、当財団として初めての企画であります。是非多数のご来場を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

終わりに、この発表会の開催にご協力いただきました大学・学校関係の皆様方に深く感謝申し上げます。

主催／財団法人富山第一銀行奨学財団

共催／富山大学・富山県立大学・富山国際大学・富山短期大学・富山工業高等専門学校

申込方法

ハガキ、FAX、電話、E-mailでお申込ください。

お申込・お問い合せ

富山第一銀行奨学財団事務局　〒939-8212 富山市掛尾町626番地

TEL・FAX　076-422-2829　E-mail:tomiken@micnet.ne.jp

A会場　201号室

15:00～15:10	開会挨拶		
15:10～15:30	大学の知の開放による子ども公開講座	富山大学芸術文化学部　教授	三船　温尚
15:30～15:50	立山に惹かれたアーネスト・サトウ —『日本旅行案内』とサトウの『日本旅行日記』から—	富山国際大学国際教養学部　教授	高成　玲子
15:50～16:10	『應響雑記』から読み解く江戸末期の富山の気候	富山大学大学院医学薬学研究部　助教	加藤　輝隆
16:10～16:20	休　　憩		
16:20～16:40	コンピュータグラフィックスを用いた雪の基礎研究	富山大学芸術文化学部　准教授	辻合　秀一
16:40～17:00	植物の染色体分化と種の多様性	富山大学大学院理工学研究部　准教授	岩坪　美兼
17:00～17:20	ヨーロッパにおける終末期の意思決定について	富山大学大学院医学薬学研究部　教授	盛永　審一郎
17:20～17:30	閉会挨拶		

B会場　202号室

15:00～15:10	開会挨拶		
15:10～15:30	ムール貝による海洋汚染の新たな調査方法	富山大学大学院理工学研究部　教授	中村　省吾
15:30～15:50	微生物酵素を用いた光学活性アミノ酸の合成	富山県立大学工学部　講師	米田　英伸
15:50～16:10	脂質の構造とその酸化安定性	富山工業高等専門学校物質工学科　准教授	峰本　康正
16:10～16:20	休　　憩		
16:20～16:40	天然多糖類混合系ゲルの機能性材料としての有用性	富山短期大学食物栄養学科　教授	深井　康子
16:40～17:00	ナノバイオマテリアルの分子デザインとバイオ機能評価	富山県立大学工学部　准教授	大谷　亨
17:00～17:20	エネルギーセキュリティーと環境保全の両立を目指すバイオマスの高度利用	富山大学大学院理工学研究部　教授	椿　範立
17:20～17:30	閉会挨拶		

裏面をご覧ください。

研究成果発表会プログラム・概要

A会場・201号室

■ 発表者	■ 題目	■ 概要
富山大学芸術文化学部 教授　三船　温尚	大学の知の開放による子ども公開講座	未来のものづくり県・富山を支える人材を育成するため、統合のスケールメリットを活かした富山大学の知と場を子どもたちに開放し、ものづくりの興味・関心を高める子ども向け公開講座について紹介する。
富山国際大学国際教養学部 教授　高成　玲子	立山に惹かれたアーネスト・サトウ ー『日本旅行案内』とサトウの『日本旅行日記』からー	『日本旅行案内』の「越中と飛騨」は、この山々を実際に歩いたサトウの旅の記録と、同地を訪れたアトキンソンの報告を基に書かれた。しかし第3版で編集者がサトウからチェンバレンに交代した時、内容は大きく変貌した。
富山大学大学院医学薬学研究部 助教　加藤　輝隆	『應響雑記』から読み解く江戸末期の富山の気候	氷見の町年寄役、田中屋権右衛門が1827～1859年の33年間に書き遺した日記から、日々の天候や異常気象、漁況や作況などに関する記事をデータベース化し、当時の気候や環境を読み解いた。
富山大学芸術文化学部 准教授　辻合　秀一	コンピュータグラフィックスを用いた雪の基礎研究	雪害が予想される施設をデジタルビデオカメラで撮影し、収集、分析した後、コンピュータグラフィックスを用い降雪および積雪を再現するための基礎研究である。この手法が、今後の有効な手段になることを提案する。
富山大学大学院理工学研究部 准教授　岩坪　美兼	植物の染色体分化と種の多様性	ひとつの種のなかに染色体数の異なる複数の系統が存在する植物がしばしば存在します。複数の染色体系統が存在する野生植物を利用する際、利用目的に最適な系統をそれらのなかから見つけ出す必要があります。
富山大学大学院医学薬学研究部 教授　盛永　審一郎	ヨーロッパにおける終末期の意思決定について	研究基金を使用して、スイス、ドイツ、オランダ、ベルギー、イギリス、イタリアの終末期の意思決定について調査した。調査に基づいて、いくつか提言する。

B会場・202号室

■ 発表者	■ 題目	■ 概要
富山大学大学院理工学研究部 教授　中村　省吾	ムール貝による海洋汚染の新たな調査方法	われわれは、イタリア料理でおなじみのムール貝（ムラサキイガイ）を使って、海洋汚染を調べる方法と浄化する方法を研究しています。今回は、ムール貝の熱ショック蛋白質を利用した調査方法について紹介します。
富山県立大学工学部 講師　米田　英伸	微生物酵素を用いた光学活性アミノ酸の合成	微生物が生産する酵素、D-アミノ酸アミダーゼを用いて医薬品等の合成原料として有用なD-アミノ酸を合成する方法の開発を目的としている。本研究では、酵素のタンパク質及び遺伝子レベルでの解析を行った。
富山工業高等専門学校物質工学科 准教授　峰本　康正	脂質の構造とその酸化安定性	脂質は脂肪酸と他の物質が結合したものであるが、その構造的特長と酸化安定性の関係は不明である。そこで任意の構造を持つ脂質の酸化過程を測定し、結合する物質が大きいほど酸化安定性が高いことを明らかにした。
富山短期大学食物栄養学科 教授　深井　康子	天然多糖類混合系ゲルの機能性材料としての有用性	環境調和性の観点から天然高分子の有効活用を目指し、グルコマンナン・カラギーナン混合系ゲルを対象に、膨潤および電場による駆動挙動の評価を行い、両性電解質ゲルの駆動源機能発現の可能性を探る。
富山県立大学工学部 准教授　大谷　亨	ナノバイオマテリアルの分子デザインとバイオ機能評価	医薬領域への展開に鑑みてナノサイズレベルからソフトマテリアルの分子構造デザインを行い、その構造特有の新機能を追求している。これら研究の一端を紹介し、産業応用への波及効果についての見解を示したい。
富山大学大学院理工学研究部 教授　椿　範立	エネルギーセキュリティーと環境保全の両立を目指すバイオマスの高度利用	化石燃料の枯渇、炭酸ガス・メタンガスの大量放出による地球温暖化、酸性雨、これらのエネルギーおよび環境問題を一括して解決できるように、資源が無限であるバイオマスの高度利用を総合的に考察し、持続発展可能な社会モデルを提案する。バイオマスのガス化及びバイオガスの化学液化の新規成果を発表する。

富山第一銀行奨学財団研究助成セミナー　研究成果発表会
申込書　FAX:076-422-2829

会社名			
住　所	〒　　ー TEL　（　　）　　FAX　（　　）		
所属部署		役　職	
参加者氏名			

※記載いただいた「氏名」「住所」「電話番号」等の個人情報は、今回の発表会の運営のみに使用し、それ以外の目的には使用いたしません。